

学校関係者評価会議

2022年6月20日 9:15—10:00

(目的)

学校関係者評価は、自己評価の結果に基づいて教育目標や教育環境等について評価を行い、医療分野の関係者及び地域の方々と共に、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて、その結果に基づき改善を図り、学校運営の改善を促進することを目的として行う。

(体制)

法人代表（看護部長） 卒業生代表（札幌西区病院総看護師長）
患者代表（札幌東社員支部支部長） 実習施設代表（中央病院総看護師長）
講師代表（社会学非常勤講師） 学校側（校長・副校長・教務主任・事務長）

(議題) 2021年度の学校の取り組みについて（報告）

- ◆ 新型コロナウイルスの感染防止のため遠隔授業、分散登校を継続しながら学生のワクチン接種と感染対策を行い、徐々に授業、実習、行事等を通常の形態で行うことを試みてきた1年だった。
- ◆ 臨地実習では昨年に続いて新型コロナウイルス感染の影響で臨地での受け入れ困難となり、学内実習に変更せざるを得ず、後半期に感染状況の緩和により一部の臨地実習が行われたが、学生が実際の患者さんと関わる経験は大きく減少することになった。
- ◆ コロナ禍で経済的に困窮した学生を対象に文科省が1月に一人10万円の学生支援緊急給付金を実施した。学生支援機構修学支援制度（給付奨学金）の利用者と学校推薦を合わせて全学生の37%にあたる合計64名が給付の対象となった。
- ◆ 学生自治会は4月に新入生歓迎会を自治会主催で開催し1年生に学校生活や学習の仕方などを伝えた。札幌東健康友の会が「看護学生を応援しよう」との取り組みを行いマスク合計26,000枚が寄贈され自治会を通じて学生に届けられた。8月に学生アンケートに取り組みコロナ禍でストレスや学業の不安を抱える学生が多くいる実態が明らかになった。9月に勤看祭をリモートで開催し3年生のレポート発表を学び、学年横断のグループ交流を行った。12月に自治会費の返金を実施。3月卒業式ではスライドを作成して卒業生を送別した。
- ◆ 全日本民医連が「新型コロナウイルス感染によって国家試験を受験できなかった場合は追試験を実施すべき」と呼びかけた運動は、マスコミにも注目され急速に社会の関心を高める運動となった。本校の3年生も不安や追試験を求める訴えが集まった。2月8日に全日本民医連を通じて厚労省への要請行動が行われ、本校学生が受験生を代表して要望を伝えた。
- ◆ 看護師国家試験は2月13日に行われ、3月26日に合格発表が行われ受験した58名全員が合格した

(意見など)

1. 多くの学生が学生支援給付金の対象となったことは良かった。経済的に厳しい学生が多数存在する。コロナ禍で学生の学び応援のために、臨床、地域からも応援していく
2. 地域と学校、学生を結びつけていくための取組を強めていきたい
3. 厳しい状況の下で学生、教員の努力が国家試験の結果となった。